

## 「集落活性化県民討論会」発言内容（概要）

1 開催日 平成24年2月4日（土）

2 開催場所 杉妻会館 4階「牡丹」

3 主な意見等

### 【今年度取組を行った大学生】

- 農作物を検査した結果、放射能の影響がまったくないにも関わらず、ほとんど売れない現状がある。
- 若い人との交流を望む住民の声が多いことから、幅広い年齢層・階層の住民を巻き込みながら、風評被害を打破するような情報発信を行っていききたい。
- 今年度の活動では、集落住民の方からの提案が多かった。昨年度提案した活性化策の実証を通し、集落住民の方の自発的・主体的な取組姿勢を引き出すことができた。
- 集落同士が連携して、合同でマルシェを開催すれば面白いと思う（横のつながり）。
- 都心部での特産野菜の販売補助などにより、これからは交流を継続していきたい。
- 集落には、誇るべき豊富な湧水があるものの、水飲み場が未整備。大学生の提案により実施した水質調査の結果でも珍しい水質（超軟水）とわかったため、多くの方に広く知らせて飲んでいただくべき。
- 大学生の取組を見聞きした他集落でも、地域活性化活動が盛んになってきている。お互いの地域がお互いの地域を意識して、お互い活性化の刺激のし合いをし始めていることも、2年間の活動の成果。
- 集落1つ1つを元気にしていくことが、ひいては福島県全体を元気にしていくことにつながると感じた。
- 避難で各家庭の分離が進んだ。住民が集まり、情報交換する機会を増やすための取組がとても大事。
- 住民同士が連絡を取り合うこともさることながら、住民同士が意思を共有し合うことも重要。
- 今年度の活動では、課題もたくさん上がった。来年度はこれら課題を踏まえ、更に広く大きく取組を展開していく。
- 放射能の影響も懸念される中、集落で住民の方と一緒に育てたお米は大学祭で完売。今年度から1年生も活動に加わったため、これからも継続して集落と交流し続けられる環境を整えたい。
- 自治体と大学が提携を結んだことにより、後輩が引き続き集落に関わり続けやすくなった。
- 単発のイベントで終わらせない取組の重要性。集落にある空き家の活用、季節ごとの旅行企画を計画中。
- 集落のおじいさんの「集落でできることをやって、目いっぱい集落で頑張っていく」という言葉を聞いて、自分たちもこれからずっと集落に関わってお手伝いしていきたいと思った。

### 【受入集落住民の方々】

- 地区が1つとなって首都圏からの子どもたち誘客に力を入れてきたが、原発事故による風評被害で予約もすべてキャンセルになった。新しい内装デザインで体験施設の魅力がアップすることで利用客が増えることに期待。
- 大学祭での特産野菜の販売をしたい。
- 大学生との交流の中で、集落にある福寿草とカタクリの群生地も活性化のために活かしたい。
- 今人口が残っている集落は、25～30年前の先人がその土地の振興のために、生活のために本気で頑張った集落。今の我々も本気で取り組めば、必ず若い世代も付いてきてくれると思う。
- 「地域づくりをやりたい」と考えていた極々少数の者の間に、大学生事業をきっかけとして連帯感が生まれた。周りを巻き込みながら現在大きなエネルギー（実行力）となりつつある。
- 集落が動き出すには、行政の支援も重要。
- 住民が大学生に関心を持ち始めたこと自体が、集落の活性化につながると感じる。
- 避難に際して、集落全員が同じ市町村にまとまって避難したかったが、子どもがいる家庭、職業を持つ家庭、お年寄りのいる家庭という事情により叶わなかった。大学生の住民をつなぐ活動を大変嬉しく感じ、これからの交流にも期待。
- 避難を機に携帯電話を持たされたお年寄りには、携帯電話を使いこなすことは難しい。離れて暮らす子どもたちと連絡を取るためにも、学生のこれからの活動に期待。大学生もずっと関わってくれると言ってくれているので、大変心強い。

### 【司会】

- 先の世代から、「あのとき福島に暮らしていた人たちがあれだけ頑張ってくれたから、自分たちがここにいるんだ」と思ってもらえたら嬉しい。復興の先にある社会というものを、一人ひとりがしっかりイメージしながら、想いをもちながら、自分たちができることをできる場所で精一杯やるしかない。
- 今みなさんは一人ではない。大きな壁が立ちはだかっているが、いろいろな方と尊重し合いながら、つながって歩んでいかなければならない。

平成23年度「集落活性化県民討論会」討論の部 主な意見

テーマ【福島復興のためにしたいこと】

区分	主な意見
大学生等 大学関係者	人を知る 事を知る
	人とのつながりを大事にして明るくしたい
	福島に今いることを、誇りに思う。それを伝える。
	出会えた西会津上谷地区の人々との関係をよりいぐね研究会として強固にして、活動を展開していきたい。持続的な協力関係の構築→そして自立へ
	円滑なコミュニケーション
	福島の良さをみんなに知ってもらおう。
	正しい情報をわかりやすく発信する
	人とのつながり きっかけ作り
	震災前以上に“福島”について考える
	被災地の方と話すこと、被災地外の人と話すこと(伝えること)
	福島に住み続け福島を支える1人になる。I love 福島
	正確な情報の発信
	福島への誇りと愛着を持つこと
	HAPPY NEWS！イイコトをつくる、集める、共有する。
	福島の今を県外、海外に正しく伝える。“Fukushima Now！”
	福島へ行き、福島を知り、福島のことを伝える。
	住民同士の意思疎通
	情報発信
	福島に人を呼びたい！福島産を食べてもらいたい！
	特産を活かしたお弁当からの特産品認知度UP！！
	多様な主体による「自立」
	大学や地元に戻って思い出話を！！
	地域(飯舘村)と学生をつなぐ
	・放射能測定、除染作業 ・情報発信 ・各大学、集落のネットワーク作り
“ウリ”を知らせる。他とは違う・良いところを情報発信	
地域を見る・歩く・聞く・味わう・語る！！	
近所のつながりを改めて考える	
祭 努力・継続・工夫	
学生と地域のつながりを継続する！	
なるべく多くの人と話し、思いを伝え、共有し合うこと。	
県外との対話と交流で豊かな気持ちを！	
古民家を再生して研究室のサテライトをつくる。	
大学生活動の継続	

平成23年度「集落活性化県民討論会」討論の部 主な意見

テーマ【福島復興のためにしたいこと】

区分	主な意見
<p>大学生等 ・ 大学関係者</p>	<p>コミュニティインフラの実現 小さな集落を元気にすることが、国の元気・活性につながる。 震災前と変わらず、中山間地域の集落の応援を続ける。</p>
<p>集落代表</p>	<p>早急な除染 みんなで地域を見守る。行政や地域リーダーの目配りの発揮が重要 災い転じて福にしようよ 川俣の野菜、福島の野菜 今までの暮らしを続けて行く(地産地消を) 県、町、行政とのこまかな打合せを密にする 除染 「とにかく除染を」地区の除染をどう進めていくか、ぜひ早急に進めていきたい。地区のまとまりのシンボルとしての施設を自然を生かした体験活動を、そしてそれを通しての交流活動をと考えていた。 福島県産のお米、野菜が風評なく心からおいしく安全だと全国の皆さんに食べていただくようにすること！(PR) 地域住民の「絆」を大切に「葛尾」に戻りたい。 今後もつながりを続ける 安全な野菜を作って直売所を続けていきたい 1、楽しく 2、一歩 3、語る 被災地との交流 ボランティア 福島はひとつ ボランティア活動 1、放射性物質についての勉強 2、各地域の実態調査 3、各地小団体による討論会 4、風評被害対策 がまん 情報→共有→正確に 福島、只見の復興は交通網から。</p>
<p>県民</p>	<p>復興は県民一人一人から 1人1人は全県民のために まず只見町の復興ありき！集落活性化策のプロジェクト、マネジメントが必要(収支計算) FEC自給圏 県内3地区の交流 住む！ 奥会津からの元気発信 人の顔の見える、価値観の共有から出来る空間の創造 中山間地域を守るの意味とは何でしょうか。住んでいる人にととのメリットはどういったものでしょうか。</p>

平成23年度「集落活性化県民討論会」討論の部 主な意見

テーマ【福島復興のためにしたいこと】

区分	主な意見
県民	<p>もっている力でみんなで参画できれば経済効果があがるよう…願いつつ…</p> <p>システムイノベーション</p> <p>風評をぶっとばしたい！！</p> <p>安心安全の食材の提供等、農業体験等で(心を)いやして頂きたい。</p> <p>都会の親戚を通して今の現状を友人に紹介してもらおう。</p> <p>音楽で地域の“絆”を深めたい。(只見)</p> <p>風評被害をぶっとばせ！奥会津からでも発信出来ること…を</p>
行政関係者	<p>幸せ実感！集落の活性化、人づくり→地域の活性化</p> <p>震災前と変わらず普通に暮らすこと</p> <p>一つ一つの“小さな光”を大切にすること</p> <p>思いをはせること</p> <p>元気な姿を伝えて皆が元気に</p> <p>輪</p> <p>行政職員として地域の声を聞き、地域の思いをくみ取り、復興に役立てて行きたい</p> <p>まずは、除染！！集落から元気を発信！</p> <p>つながる！！</p> <p>外からの力ももらって元気づけたい</p> <p>いわき日本一 県外ではなくいわきで</p> <p>“会津”力を使ってほしい。</p> <p>元気を与える。</p> <p>情報の共有化</p> <p>安心を伝える</p> <p>皆が戻ってくるようなこと</p> <p>住民の方々の自治組織の立ち上げ(復興、集落活性化 いろいろ)</p> <p>除染</p> <p>地区環境の再生</p> <p>交流人口が増えるようなお手伝いがしたい。</p> <p>正しい情報発信</p> <p>地域を元気にする。まず、そのために自分が元気になる。</p>